

☒ソフト事業のみ

☐ハード事業を含む

成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度 令和7年度

市町村名	小鹿野町				
提案事業名	DIY（であい）を通した交流拠点創出事業				
事業期間	令和6年度 ～ 令和6年度				
成果指標	(成果を検証する指標) DIY参加人数と観光案内所利用人数				
	(成果検証の具体的な方法) 町内有志の若者のDIY作業への参加者と新たな交流施設の利用者状況を比較する。				
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C
	従前値 (令和5年4月時点)	DIY参加人数:0人 観光案内所利用人数:10人/日	目標値 (令和7年2月時点)	DIY参加人数:のべ100人 観光案内所利用人数:20人/日	実績値 (令和7年2月時点)
	(施設建設等の場合の実績)				
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)	稼働率 (%)	(目標) (実績)	
	住民への公表状況 及び特記事項		町HPによる公表		

【事業効果の整理・原因分析】

令和7年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① DIY（であい）を通した交流拠点創出事業	△	計4回実施したワークショップでは、既存の観光案内所の活用、整備内容の検討とDIYが実施された。DIY完了後の観光案内所では地域住民参加型のワークショップが開催されているため、地域コミュニティの拠点として人々が集う空間が形成され始めた。 しかし、いずれのワークショップも15名程度参加したが、参加者間の交流を図る工夫がされていなかったため、ワークショップ後の参加者の交流は希薄であり、若者の出会い創出と関係性深化の効果は得られなかった。
②	○ △ ×	
③	○ △ ×	
④	○ △ ×	
⑤	○ △ ×	
⑥	○ △ ×	

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について十分に成果が認められた点	DIY後の観光交流館で地域住民参加型のワークショップが実施され、地域コミュニティの拠点が形成され始めた点。
実施事業について成果が不十分である点	参加者間交流の工夫が少なく、観光案内所の活用法検討と整備に内容が傾倒してしまったため、ワークショップ後の参加者間の交流が希薄であった点。
成果検証を踏まえた今後の改善策	今後は、観光案内所をまちなかの賑わいを創出する拠点とし、ワークショップを開催するにあたり参加者が十分に交流を図り、繋がりを広げることができるような工夫をする。